

祝 辞



全国開拓農業協同組合連合会

代表理事会長 櫻 澤 勇 作

大八洲開拓五〇周年を記念し、戦前・戦後開拓の苦闘を乗り越え自立專業農家を創建した輝く成果を、長く後世に伝えるため、記念誌を発行するにあたりまして、全国の開拓の同志を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

はじめに、これまで入植者として開拓事業に精励された同志の皆様、並びに開拓関係団体の皆様に対しまして心から敬意を表しますとともに、心半ばにして鬼籍に入られた方々に対しまして、衷心より哀悼の意を捧げます。

貴開拓史によりまして、昭和二〇年八月敗戦により、満州に於ける大八洲開拓団の夢は無残にも破れ、団員や家族の六割が死ぬという悲惨な逃避行のなか、帰国後は内地において大八洲開拓団を再建しようと決意し、昭和二十一年一月先遣隊が現在地に入植したことに始ったことが記されております。時あたかも、敗戦により、我が国は多くの領土と權益を失い、祖国は焦土と化し人心は荒廃し食糧は窮乏の域に達したため、海外からの引揚者・復員軍人・戦災者等が中心となり、食糧自給と人心の安定のために緊急開拓事業が開始されたのは、ご高承の通りであります。貴開拓団を始め、私達開拓の同志は、辺境荒地などの未開の地での開拓農業へ身を投じ、食糧確保のためのあの言語に絶する血と涙と汗の苦闘は、遙かに遠い思い出となり、今更り豊かな開拓地を見ると、同じ開拓者として感無量な思いが致します。

さて、今日の我が国農業は、これからは国際的な枠組みの中で維持発展させていかなければならないという極めて厳しい試練の時代を迎えました。さらに、二一世紀は飢餓の世紀と予測され、各国とも食糧の自給が喫緊の課題となりつつある現在、日本農業の中核を担う開拓農業は、将来を強く期待されておるところであります。この様ななかにおいて、此の度記念誌を発行し開拓の歴史を再確認し、新たな一歩を踏み出すことは、誠に意義深いものがあります。

最後にあたりまして、この記念誌が、永く子孫に読みつがれ開拓農業のみならず、貴組合及び貴県の農業発展のために生かされることと、開拓者並びに開拓関係団体の皆様方のご健康とご多幸を、また本日を機に二一世紀に向け戦後の開拓農業が益々発展されますことを祈念申し上げます、お祝いのご挨拶といたします。